求古楷書指針

306
84

始

求古楷書指針

臨皇甫府君碑

306
84

求古楷書指針

臨皇甫府君碑

隨柱國

左光祿

大夫弘
義明公

皇甫府
君之碑

銀青光

祿大夫

行太子

左庶子

上柱國

黎陽縣

開國公

于志寧

製

夫素秋

肅致勁

草標於

疾風祓
世艱霾
忠臣章彰
於赴難

銜須授

命結纓

殉國英

聲煥乎

記牒微
烈著於

旂常豈
若曩起

蕭墻禍

生萩奮翰

强踰七

國勢重

三盫其

有蹲水

火而不

辯臨鋒

刃而莫

顧激清

風於後

葉抗名

節於當
時者見

之和義
明公矣

君諱誕字玄憑

安定朝那人也

昔日立効

長丘樹

績東郡

太尉裂

壤於槐
里司徒

胙土於
祈門是

以車服
旌其器

能茅社表其
勲德銘功衛
鼎騰美晉鍾

盛族冠於國
高華宗邁於
欒郤備在史

牒可略言焉
曽祖重華使
持節龍驤將

軍梁州刺史

潤木暉山方

重價於趙璧

媚川照闕曜

奇采於隨珠

祖和雍州贊

治贈使持節
散騎常侍車
騎大將軍儀

同三司滕涇
二州刺史高
衢將騁邊友

追風之足扶
搖始搏旱隧
垂天之羽父

璠使持節驃
騎大將軍開
府儀同三司

隨州刺史長
樂恭侯橫劒
椎桎威重冠

軍折瑞蕃條
聲高勃海公
量冐申伯稟

嵩山之秀氣
林蕭相降
昻緯之淋精

擾德依仁居
貞體道含章
表質詎待變

於朱藍菜孝
為基寧取訓
於檮梓鋒剸

犀象百練挺
於昆吾翼掩
鴛鴦鴻九萬奮

於滇海博韜
胄產文贍卿
雲孝窮溫清

之方忠盡匡
救之道同何
元之器局被

重晉君類荀
佽之宏畾見
知魏主斯故

已羅衆藝囊
括群英者也
起家除周畢

王府長史榮
名蕃牧則位
重首寮袨服

雎陽則譽光
上客既而蒼
精委馭炎運

啓畾作貳邊服
寔資令望授廣
州長史悅近來
遠變輕訬於雕

題伐叛懷柔漸
淳化於緩耳蜀
王地雾維城寄
深磐石建旟玉

壘作鎮銅梁妙
擇奇材以爲僚
佐授公益州揔
管府司法昔梁

孝開國首辟郢
陽燕昭建邦肇
徵郭隗故得馳
令問於碣館播

芳猷於平臺以
古方今彼此一
也尋除尚書比
部侍郎轉刑部

侍郎趍步紫庭
光暎朝列折旋
丹地譽重周行
俄遷治書侍御

史彈違糾慝時
絶權豪霜蘭直
繩俗寢貪競隨
文帝求衣待旦

志在恤刑呪網
泣辜情存緩獄
授大理少卿公
臣細必察同張

季之聽理寛猛
相濟比于公之
無寃但禮闈務
殷樞轄寄重允

膺此職寔難其
人授尚書右丞
洞明政術深曉
治方臧否自分

條目咸理丁母
憂去職哀慟里
閭隣人為之罷
社悲感衢路行

容以之輟歌孝
德則師蕣彝倫
精誠則貫徹幽
顯雖高曾之至

性何以加焉尋

詔奪情復其

舊任于時山東

之地俗昇民澆

雖預編民未行

聲教詔公持節

為河北河南道

安撫大使仍賜

米五百石絹五
百匹公轎軒布
政美冠皇華之
篇擁節觀風榮

甚繡衣之使事
訖反命授尚書
左丞然并州地
雘叅墟城臨晉

水作固同於西
蜀設險類於東
秦寔山河之要
衝信蕃服之襟

帶授公并州揔
管府司馬加儀
同三司公賛務
大邦聲名藉甚

精民感化黠吏
畏威屬文帝劒
壘空留鑾蹕莫
反楊諒率太原

之甲擁河朔之
兵方剌段之作
亂京城同州吁
之挺禍濮上雖

無當辟之兆乃
懷奪宗之心公
倫說安危具陳
逆順翻納魏勅

之榮反被王悍
之災仁壽四年
九月溘從運往
春秋五十有一

萬機起殲良之
歎百辟興喪予
之悲切孔氏之
山頹痛楊君之

棟折贈柱國左
光祿大夫封弘
義郡公食邑五
千戶謚曰明公

禮也喪事所須
隨由資給賜帛
五千段粟三千
石惟公温潤成

性夙表白虹之
珎黼黻為文彣
挺雕龍之采行
已窮於六本蘊

德包於四科延
閣曲臺之竒書
鴻都石渠之秘
說莫不尋其枝

葉踐其隩隅辟
越箭達犀飾之
以括羽楚金切
玉加之以磨礲

救之同於指困
親識待其舉火
進賢方於推轂
知己俟以彈冠

存信捨原黃金
賤於然諾忘身
殉難性命輕於
鴻毛齊大小於

沖襟混寵辱於靈府可
謂楷模雅俗冠冕時雄
者也方當亮采泰階參
綜機務豈謂世逢多故
運屬道消未展經邦之
謀奄鍾非命之酷世子

民部尚書上柱國滑國
公無逸以為邢山之下
莫識祭仲之墳平陵之
東誰知子孟之墓乃雕
戈勒石騰實飛聲樹之
康衢永表芳烈庶葛亮

之隴鍾生禁之以樵蘇
賈逵之碑魏君歎之以
不朽乃為銘曰
殷后華宗名卿冑系人
物代德衣冠重世逢時
翼主膺期佐帝運榮經

綸執鈞匡濟門承積慶
世挺偉人夜光愧寶朝
采慙珎雲中比陸日下
方荀抑揚元輔參贊機
鈞王葉東封貳圖北啓
伏奏青蒲申裾朱邸名

馳碣石聲高建禮珥筆
憑臺握蘭文陛分星裂
土建侯開國輔藉正人
相資懿德中臺輟務晉
陽就職望重府朝譽聞
宸極亂階蔓草災生剪

桐成師搆難太牀興戎
建德効節夷吾盡忠命
屯道著身殁名隆牛亭
始卜馬猶初封翠碑列
鳳丹旆圖龍煙横古樹
雲鎖喬松敬銘盛德永

播笙鏞
銀青光祿大夫歐陽
詢書
昭和十三年歲次戊
寅仲秋史邑道人臨

昭和十三年 紅邑

皇甫府君之碑解說

皇甫君之碑は九成宮醴泉銘、溫彥博碑とともに歐陽詢書碑中尤も文字の明晰な磨泐の少いものである。歐陽詢が初唐三大家として後世楷法の機樞をなしてゐることは屢々縷說した所である。歐法研究の對照が殆んどこの三碑に負ふ所大なるを見る時、その如何に書道的價値の偉大なるかは想倒出來やう。殊に皇甫君之碑は歐陽詢の最も壯年の書であつて、九成宮の如く渾厚の趣には乏しいとは云へ、筆力最も峻拔遒勁歐法の面目を露骨に躍如せしめてゐるものである。初學楷法模範としてはこれ以上のものは無いといつても過言ではあるまい。二十八行、行每五十九字、立碑年代は不明であるが、多分貞觀初年のものであらう。明初に裂紋一道あり、首行の碑字より起つて斜行して末行第四十八字に至つて止まつてゐる。この裂紋初めは線の如く、之を線斷本と稱されてゐる。萬曆年間中斷して缺損數十字に及ぶと云ふ。故に未斷本なれば宋拓本にして世に珍重せらる。碑字中參綜機務の務字未泐にして銘詞も亦完好なるを宋拓本の證査とされてゐる。明初の線斷本はこの務字已に泐滅、裂道の各字も僅かに微損し、父瑤の瑤字猶存し、明末の已斷本は裂道の各字俱に其半を損し、瑤字も又見えず、銘詞も又剝蝕が多い。而して尙三監の二字を存してゐる。これを三監本と稱す。淸の初めに至つてこの三監の二字も已に磨泐し、銘詞の初めと中間三十餘字漶漫、而して文中無逸の二字猶存してゐる。これを無逸本と稱されてゐる。近拓本はこの無逸の二字已に剝落筆劃又甚だ瘦せ原刻の面影を留めてゐない。

茲に本大觀に輯錄のものは宋拓本と稱せられて一字の缺壞もないのは難有い。或は補塡せる箇所もあり、宋拓本としての價値には疑問のあるものとは思はれるが、文字頗る完好にして、皇甫の面目を窺ふ參考書蹟として、又初學模範として無二の研究對照たる價値のあるものである。山本竟山翁嘗て曰く、「皇甫を學ばんには先づこの碑より入るべきである」と。

皇甫府君碑釋文

銀青光祿大夫行太子左庶子上柱國黎陽縣開國公于志寧製。

夫素秋肅殺，勁草標於疾風，叔世艱虞，忠臣彰於赴難。銜須授命，結纓殉國，英聲煥乎記牒，徽烈著於旂常，豈若疊起蕭墻，禍生蓄翰，強踰七國，勢重三監，其有踏水火而不辭，臨鋒刃而莫顧，激清風於後葉，抗名節於當時者，見之卯義明公矣。君諱誕字元憲，安定朝那人也。昔立勳長丘，樹績東郡，太尉裂壤於槐里，司徒胙土於彤門，是以車服旌其器能，茅社表其勳德。銘功衛鼎，騰美晉鍾，盛族冠於國高，華宗邁於欒郤。備在史牒，可略言焉。曾祖重華，使持節龍驤將軍梁州刺史，潤木暉山方，重價於趙璧，媚川照闕曜，奇采於隨珠。祖和，雍州贊治，贈使持節散騎常侍車騎大將軍儀同三司，膠涇二州刺史，高衢將騁，遽反追風之足，扶搖始搏，早墜垂天之羽。父璠，使持節驃騎大將軍開府儀同三司，隨州刺史，長樂恭侯。橫劍桎梏，威重冠軍，折瑞蓍條，聲高渤海。公，量包申伯，稟嵩山之秀氣，材兼蕭相，降昂緯之淑精，據德依仁，居貞體道，含章表質，詎待變於朱藍，恭孝爲基，寧取訓於橋梓。鋒刃犀象，百鍊挺於昆吾，翼掩鵠鴻，九萬奮於溟海。博韜胥產，文贈卿雲，孝窮溫清之方，忠盡匡救之道，何充之器局被，重晉君，類荀攸之宏圖見知，魏主，斯故包羅衆藝，囊括郡英者也。起家除周畢王府長史，策名蓍牧，則位重首寮，袨服睢陽，則譽光上客。既而蒼精委馭，炎運啓圖，作貳邊服，寔資令望，授廣州長史，悅近來遠，變輕訬於雕題，伐叛懷柔，漸淳化於緩耳。蜀王地處維城，寄深磐石，建旗玉壘，作鎮銅梁，妙擇奇材，以爲僚佐，授公益州總管府司法。昔梁孝開國，首辟鄒陽，燕昭建邦，肇徵郭隗，故得馳令問於碣館，播芳猷於平臺。以古方今，彼此一也。尋除尚書比部侍郎，轉刑部侍郎，趨步紫庭，光暎朝列，折旋丹地，譽重周行。俄遷治書侍御史，彈邀糺慝，時絕權豪，霜簡直繩，俗褒貪競，隨文帝求衣，待旦志在，恤刑，呪網泣辜，情存緩獄，授大理少卿，公巨細必察，同張季之聽理，寬猛相濟，比平公之無冤。但禮闈務殷，樞轄寄重，允膺此職，寔難其人，授尚書右丞，洞明政術，深曉治方，臧否自分，條目成理，丁母憂去職，哀慟里閭，隣人爲之罷社，悲感衢路，行客以之輟歌。孝德則師範彝倫，精誠則貫徹幽顯，雖高曾之至性，何以加焉。尋詔奪情復，其舊任。干時山東之地俗阜民澆，雖預編民，未行聲教，詔公持節爲河北河南道安撫大使，仍賜米五百石，絹五百匹。公軒軒布政，美冠皇華之篇，擁節觀風，榮甚繡衣之使。事幷反命，授尚書左丞，然訖州，地處參墟，城臨晉水，作固同於西蜀，設險類於東秦。寔山河之要衝，信蓍服之襟帶。授公幷州總管府司馬，加儀同三司，公贊務大邦，聲名藉甚。精民感化，黠吏畏威，屬文帝劍璽空留，鑾蹕莫反，楊諒率太原之甲，擁河朔之兵，方叔段之作亂，京城同州吁之挺禍，濮上雖無當璧之兆，乃懷奪宗之心。公備說安危，具陳順逆，翻納魏勃之策，反被王悍之災。仁壽四年九月，遂從運往，春秋五十有一。萬機起殲，良之歎百辟興喪，予之悲。切孔氏之山頹，痛楊君之棟折。贈柱國左光祿大夫，封弘義郡公，食邑五千戶。謚曰明公，禮也。喪事所須，隨申資給，賜帛五千段，粟三千石。惟公溫潤成性，夙表白虹之珍，黼黻爲文，幼挺雕龍之采。行己窮於六本，蘊德包於四科，延閣曲臺之寄書，鴻都石渠之祕說，莫不尋其枝葉，踐其奧隅，譬越箭逢犀，飾之以括羽，楚金切玉，加之以磨礪，救乏同於指困，親識待其舉火，進賢方於推轂，知己俟以彈冠，存信捨原黃金，賤於然諾，忘身殉難，性命輕於鴻毛，齊大小於冲襟，混寵辱於靈府，可謂楷模雅俗，冠冕時雄者也。方當亮采泰階，參綜機務，豈謂世途多故，運屬道消，未展經邦之謀，奄鍾非命之酷。世子民部尚書上柱國滑國公，無逸以爲邢山之下，莫識祭仲之墳，平陵之東，誰知子孟之墓。乃雕戈勒石，勝實飛聲，樹之康衢，永表芳烈。庶葛亮之隱鍾，生禁之以樵蘇，賈逵之碑魏君，歎之以不朽。乃爲銘曰。

殷后萃宗，名鄉冑系，人物代德，衣冠重世。逢時翼主，膺期佐帝，運策經綸，執鈞匡濟。門承積慶，世挺偉人，夜光愧寶，朝采慙珍。雲中比陸，日下方荀，抑揚元輔，參贊機鈞。王葉東封，貳圖北岱，伏奏青蒲，曳裾朱邸，名馳碣石，聲高建禮，珥筆憲臺，構難太叔興戎，建德効節，夷吾盡忠，命屯道著，身歿名隆，牛亭始卜，馬獵初封，羣碑刻鳳，丹旆圖龍，煙橫古樹，雲鎖喬松。敬銘盛德，永播笙鏞。

銀青光祿丈夫歐陽詢書

昭和十三年十二月五日印刷　昭和十三年十二月十日發行

求古楷書指針　定價金貳圓

著者　辻本史邑　印刷所　日本版書印刷合資會社　大阪市浪速區貝柄町二〇

編輯兼發行者　大淵善吉　大阪市南區東清水町二九　發行所　駸々堂書店　大阪市南區東清水町二九　審査者　辻本史邑

版權所有

寧樂書道會長　辻本史邑先生監修

昭和新選 碑法帖大觀

既刊三十四册
各冊縦三十三糎九、横十九糎
オフセット印刷、唐本仕立

定價各一圓三十錢
郵送料　各九錢

發行趣旨

書道の研究が三千年來の右碑法帖を對照としてなさるゝ所である。

然るにこれが名碑法帖を選擇入手することは頗る困難である。本會は早くより此の點に着目し之が刊行を見るならば、嘗く同好の士を益することは甚大ならんと、こゝに本書刊行の意を決し、營利を度外視して一切の犧牲を拂ひ、最も精選されたる基本的碑法帖百種を精印して「昭和新選碑法帖大觀」と題し昭和九年本會長辻本史邑監修のもとに着々計畫を進め、翌十年二月、其の第一卷の刊行を見る、爾來卷を重ねること三十四、其の眞價愈々あらはれ、今や絶賛の嵐を呼びつゝあり、乞ふ！　書道愛好の士は、せひ机上一本を備へられんことを!!

第一輯　自一卷 至十二卷　全卷完結・各卷左の通り

第一卷　九成宮醴泉銘（楷）　海内第一と稱せられる唐拓本を精印す。
第二卷　興福寺斷碑（行）　山本覺山翁秘藏の舊拓本を精印す。
第三卷　漢張遷碑（隸）　山本覺山翁秘藏の舊拓無逸碑により精印す。
第四卷　孟法師碑（楷）　臨川四寶の一つとして海内孤本と稱せられるもの。
附　枯樹賦（草）　鳥帖中に刻されたる右軍の草書中、代表的のもの即ち淳化、閣帖、餘清賞、快雪堂、眞賞齋の諸帖より精選収録す。
第五卷　王右軍草書帖（草）

張金界本蘭亭（秋碧堂本）　神龍半印本蘭亭

第六卷　石鼓文附吳昌碩石鼓文（篆）　宋拓本を以て精印す。
第七卷　王右軍聖教序（行書）　人間第一本として、聖教序中の最上のもの。
第八卷　孔子廟堂碑（楷）　臨川四寶の一つとして海内孤本と稱せられるもの。
第九卷　智永眞草千字文（草）　谷氏眞蹟千字文の寫眞により精印す。
第十卷　新出土六朝墓誌三種（楷書）　本部所藏の新出土六朝墓誌の優秀なもの三種。
第十一卷　洛神賦二種（行）　南唐澄心堂本中に轉刻された王羲之洛神賦と秋碧堂中に轉刻された趙松雪洛神賦を精印したもの。
第十二卷　李懷琳絕交書（草書）　萬歲通天帖（草書）　本部所藏の佚雲館の本刻中より精印。

第二輯　自一卷 至十二卷　全卷完結・各卷左記

第一卷　隋蘇孝慈墓誌銘（楷）　筆力遒勁前編絮整、細楷模範の逸寶である。本部所藏の初拓本逸品より精印す。
第二卷　趙子昂蘭亭十三跋（草）　數多ある子昂行書中の逸高である。快雪堂帖と眞蹟晴間とを併せ収録して學書者の便に資せんとす。
第三卷　孫過庭書譜上卷（草）　草書研究の最高模範としての書譜の價値は今更申すまでもない。山本覺山先生舊藏の原拓珍貴本より精印す。
第四卷　孫過庭書譜下卷（草）　全前
第五卷　虞恭公碑附仝墓誌銘（楷）　虞恭公碑は歐陽詢八十一歳最も晩年の楷書にて宋拓逸品より精印収録することゝせり。仝墓誌銘はこれ又容て後に公刊されざる珍品にて細楷模範に絶好の賞翫である。
第六卷　靈飛經（楷）　數多ある細楷中、筆致の精妙、結體の精致なる靈飛經に及ぶものはなからう。逸意堂の初拓本より精印す。
第七卷　漢曹全碑（隸）　隸書最高模範として普く天下に喧傳さるゝもの海内第一初拓本と稱せらるゝものより精印す。
第八卷　祭姪季坐位二稿合冊（行）　顏魯國の行書が現代書道に如何に偉大なる影響を及ぼせるかは今更言を俟たぬ所である。祭姪季坐位二稿は顏氏行書中の代表作である。祭姪季坐位は歐陽詢の楷書研究の絶好模範である。然るに今日この碑の公刊を見ず。ここに寧山翁藏の舊拓本より精印輯録した次第である。
第九卷　道因法師碑（楷）　續之細楷の代表模範である。詮竹齋本、寶竹齋本、愚池堂原本の三種と、于鼎の臨書とを合せて収録す。
第十卷　黃庭經四種合冊（細楷）　中唐草書大家としての懷素の地位は今更贅言を要せぬ所、千金帖は佚雲館本刻より翻刻せる聖母帖は本部所藏寫拓本より精印す。
第十一卷　懷素千金帖聖母帖合冊（細草）

306
84

第十二卷 雁塔聖教序（楷）

積産其楷書中の極品である。本部所藏の舊拓本より縮印す。

第三輯

自一卷至十二卷 既刊十冊・以下續刊

第一卷 皇甫府君之碑（楷）

歐書中の最も峻拔な譜る初學楷法研究家の絶好模範たるは言を俟たず、第一輯の九成宮、第二輯の虞恭公碑は相まつて、歐書楷法の完璧なるものなり。

第二卷 賀知章孝經（草）

現在皇室御物にして明治十七年内倉より覆刻せられ墨帖となつたもので用筆勁利、鳳飛鸞翥、一氣呵成の感あり。元來賀知章の筆蹟は支那に於ても數多ある法帖中殆んど絶ちて眞蹟なしとせられること久しく、紙上に重寫せる如くである。しかるに今一千八百餘年の此の眞蹟が獨り我が國にあることは國寶の幸福と云はねばならぬ。

第三卷 王羲之十七帖（草）

古來草書研究の模範として、書道研究家の參ぜざるなき草書經典なり、第一輯王羲之草書帖と相俟つて草書模範の兩璧といふべし。

第四卷 漢禮器碑（隸）

楷書に歐の體風、虞の筆法二輯の曹全碑は形質に優れ禮器は實に規矩に超絶す。以て三大隸法模範といふべし。

第五卷 鄭文公下碑上卷（楷）

第六卷 鄭文公下碑下卷（楷）

包愷伯云ふ。北碑體多く勁く出づ。鄭文公碑は北魏六朝楷法の權輿なり。晉編輯先生の楷書の根源も亦この碑より出づ。

全罰

第七卷 李北海雲麾將軍李思訓碑（行）

子昂、李北海、王羲之の行書はその形質に於いて、自ら一脈相通ずるものあつて、行書研究の體系として見るべかりざる事實なり、而して李北海の書せし碑實に八百餘に及ぶといふ。而してこの李思訓碑を以つてその代表的傑作とし得るものなり。行書研究家の必ず一本を机上すべきものなり。

第八卷 高貞碑（楷）

用筆の精妙なる結構の正整なる、實に北魏楷碑の精純を極めたるものといふべし。初學六朝模範としてこれ以上のものは他に求め得ず。

第九卷 隋寧贊碑附美人董氏墓誌（楷）

寧贊碑は修法寺、龍藏寺とともに隋代三碑の一なり。而して唐代歐法の先聲をなすと稱せらる。美人董氏墓誌は慈寺慈墓誌と共に初學楷書模範の双璧なり。

第十卷 秦泰山刻石五十三字本附秦琅琊臺刻石（篆）

石鼓文とともに石刻篆書模範の權輿なり。加ふるに辻本會長の金臨を合冊して初學篆書手本としての完全を期せんとす。

第十一卷 歐虞行草書帖（行）

歐の皇帝帖、虞の積雪帖、次南公墓誌等、歐虞の行草有名諸帖を快雪堂、戲鴻堂、汲古閣等各種帖中よりその優秀なるものを輯錄して行草模範としての完璧を期す。

第十二卷 未定

發行所 大阪市南區東清水町二九 駿々堂內 寧樂書道會

發賣所 大阪市南區東清水町二九 駿々堂書店

終